

## 豊臣秀吉の朝鮮出兵と高砂

高砂の十輪寺の本堂脇に「九十六人溺死霊」と刻まれた宝篋印塔ほうきやくいんとうがあります。これは豊臣秀吉の朝鮮出兵に際して高砂浦から徴発され、死亡した九六人の水主みづぬしを供養するため、享保一五年（一七三〇）に十輪寺の然空旭燦上人ぜんくうしやくさんしやうにんが建てたものです。その周囲に集められた小さい石塔婆いしとうばはそれより古い時期のものと推測されています。また本堂には九六人の戒名が記された位牌が安置されており、裏の銘文によつて宝暦二年（一七五二）に作られたことがわかります。そこには慶長二年（一五九七）朝鮮再征の時に高砂浦居民一〇〇人が軍船水主として動員され、陸地の戦場で九六人が死亡し、船の留守をした四人のみが生還したと記されています。

豊臣秀吉が文禄元年（一五九二）と慶長二年の二度にわたつて一五万余の大軍で朝鮮に侵攻したいわゆる文禄・慶長の役は朝鮮の人々を苦しめ、

日本側にも多くの死傷者を出して豊臣政権が衰退する原因となりました。当時の戦争は武士だけではなく陣夫じんぶや水主など多くの非戦闘員が動員されましたので高砂でもこのような犠牲者が出たといえます。直接の史料がありませんので詳細は不明ですが、浦々から一〇〇軒に一〇〇人の割り得水主を徴発したとされていますので、当時の高砂が一〇〇〇軒を超える大きな港町であったことがわかります。

（高砂市史編さん専門委員長  
今井 修平）



▲ 十輪寺の宝篋印塔